

人生は自分で決めよう

まず、触れておきたいのは、みんなも気になるであろうおすすめ
の勉強法である。「東大生がおすすめする勉強法」、「これだけはしてはいけない勉強法」というよう
なうたい文句で、たくさんの情報が本やネットに溢れかえっている。しかし、これをそのまま勉強法
として「完全に取り入れる」のは絶対にやめた方がいい。なぜなら、それで、もし失敗した時にその著
者やライターは一切責任を取って

くれないからだ。「こんな方法がお勧めだよ。知らんけど。」という具合に書かれた、そんな勉強法を「完全に」取り入れるのは馬鹿らしくなってこないだろうか。勉強法は自分で決めるのである。学校の定期考査などで様々な勉強法を試し、試行錯誤して自分流の勉強法を確立させるのだ。しかし、本やネットにある勉強法を「参考にする」のは大いに結構だと思う。僕もはじめは書くことに重視した勉強をしていた。しかし、4年生あたりから、書くことの効率の悪

さから、ノートなどを見て誰かに教えているかのように話す勉強へとシフトしていった。僕は話すことが好きなので書くよりも話す方が向いていたのだ。結局自分はこの6年間一度も塾や予備校に通うことなく、我流を貫いた。自分に合った勉強法は本当に人それぞれである。自分に合う勉強法をこの学校で見つけて欲しいと思う。

自分の人生において、極力責任の対象が自分に向くようにすることが重要である。責任の対象を他人、特に向こうが自分のことを

知らないような他人に向けることはとても危険である。それを繰り返すといつか自分にその全責任が返って来て、崩壊してしまうように思う。これは何も勉強法に限ったことではない。自分の志望校を決める時に、親、先生、友達に言われたからという理由だけで決めるのは危険である。その大学で何か失敗したとき、入って後悔したとき、責任の対象は親や先生、友達に向く。しかし、間違えてはいけないのは、責任の対象は親や先生、友達に言われるがまま受け入

れた自分であるということだ。多少もめようとも、自分の意見を突き通すことが大事であることを心に留めておいてほしい。

興味があるか知らないが、最後に自分の話をしておこうと思う。なぜ、適塾入試を受けようと思ったのか。それは、僕の友人が熱く僕に対してすすめてきたからである。その制度を徹底的に調べ、自分に損はないか、二次試験の勉強と自分で書く推薦書の時間の兼ね合いをどのようにしているか。など、様々な検討をした結

果、自分の判断で適塾入試に受けることを決断した。元々二次試験を受けようと思っていたので、適塾入試はだめで元々、受ければラッキーというような気持ちで、あくまでも二次試験の勉強を引き続き行った。そして、まさかの適塾入試での合格であったのだ。正直センター試験に自信のある人、それから自分の言葉で表現することに長けている人は、この方式で受験してみるのもありなのかもしれない。しかし、二次試験の勉強時間が多少削られること、この

方式でだめだったときの精神的ダメージ、その後の二次試験の影響を自分で十分に考えたうえ、決断してほしい。

最後に、指定校推薦を受ける人、推薦やAOを受ける人、国公立で二次試験を受ける人、私立を受ける人、それらは全て自分の選択である。どんな形であれ自分で選択できるのは素晴らしいことである。その誇りを胸に、他人に何か言われても、最後は自分を信じよう。花は開く。